

科学技術外交のあり方に関する有識者懇談会 第1回会合

科学技術外交の現状と課題 (趣旨説明)

平成26年7月29日
外務省

科学技術外交の在り方について 議論の必要性

■ 科学技術外交が直面する課題

- ・ 科学技術分野の国際間の協力と競争の進行
- ・ 新興国の高度の科学技術力のキャッチアップ
- ・ 地球的課題への対応策

■ 科学技術外交：

「科学のための外交」と「外交のための科学」

科学技術外交の新たな取り組みについて (今後の検討課題)

検討課題① 科学技術外交の立脚点

検討課題② 各国への対応の強化に向けた方策

検討課題③ 科学技術外交の実施体制

今後の検討課題①

科学技術外交の立脚点

■ 個別共同プロジェクトベースの科学技術協力から戦略性のある科学技術外交へ

科学の発展、産業競争力の維持、国際的なプレゼンス確保など科学技術外交を進める際に考慮すべき要素を整理。

■ トップ外交，マルチ外交における科学技術の活用

トップ外交において科学技術イノベーション協力をプレイアアップ。

ポスト2015年開発アジェンダの文脈（我が国は、防災、保健といった分野を重視）での科学技術の活用。

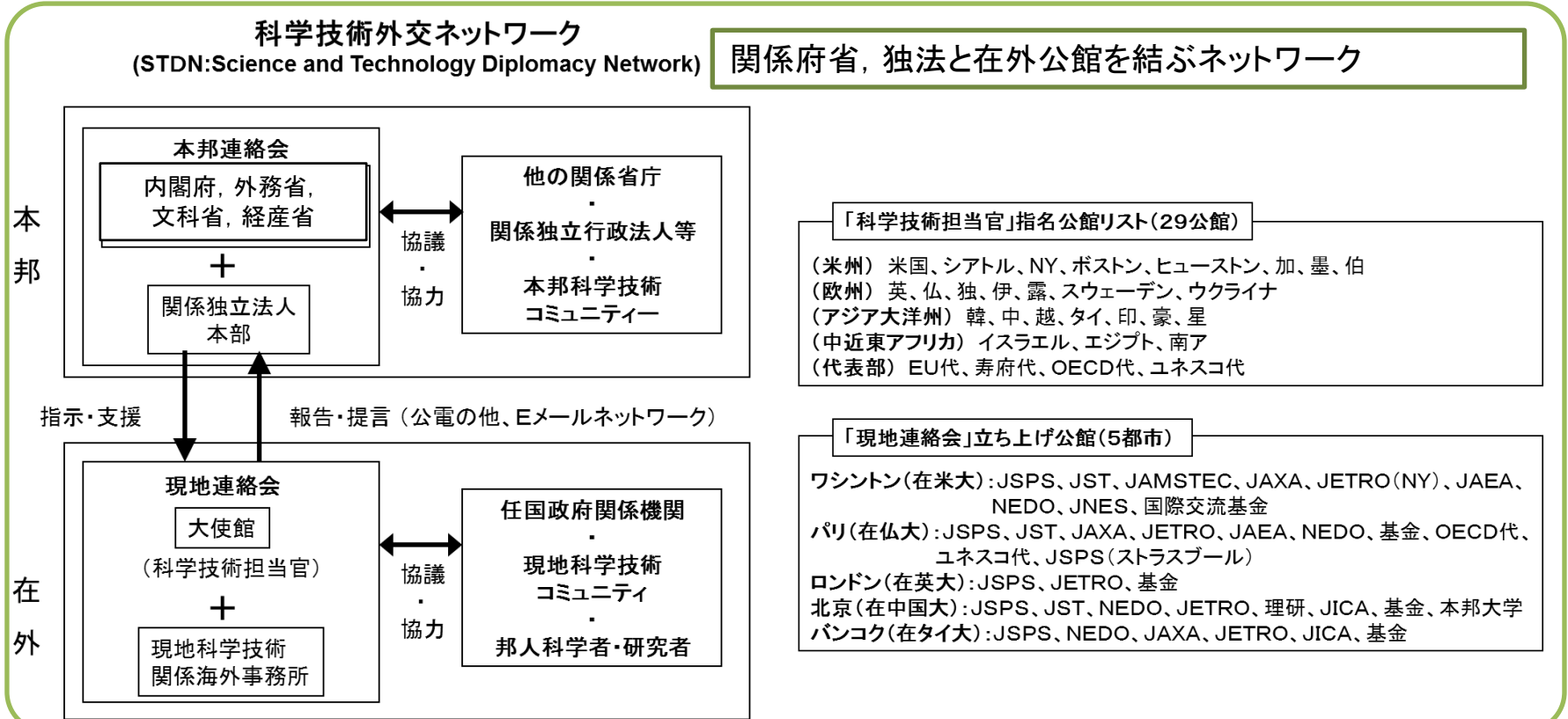
今後の検討課題②

各国への対応の強化に向けた方策

- 我が国にとってのメリット(リターン)の明確化:
国別対応方針を策定 → WIN-WIN型の戦略的な協力へ
- 科学技術協力協定の下での協力の拡充
 - ー対象国の拡大
 - ー既存の対象国との協力の拡充
- ODAと科学技術の連携による開発途上国との協力
SATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力)や
工科系大学整備支援等の活用

今後の検討課題③実施体制

(1) オールジャパンでの連携体制の構築



<課題>

- 産業界、学术界との連携体制の構築
- 国別対応方針の策定の間として活用する可能性

今後の検討課題③実施体制

(2) 外交の現場での科学人材の活用

研究者出身者(科学人材)の知見を活かす交渉ニーズ等が増大

- ー 地球規模課題などの専門分化の進行
- ー 国際的な科学プロジェクトの増加など



■大学や独法(研究機関)の研究者との人事交流

科学人材を外交の現場で活用することで、我が国の交渉戦力アップに
(参考: 米AAASには科学技術政策フェローシップ制度あり。国務省の科学顧問、オピニオンリーダーを輩出)

■外交実務の経験を持つ研究人材を育成

我が国の国益を考えつつ国際科学プロジェクトに参画できる研究者の層を科学者コミュニティに創出(国際機関への邦人職員送込みも)

■「科学顧問」の可能性

外交政策について科学的視点から助言
(科学者コミュニティとのネットワークを活用)